

感染リスクが高まる「5つの場面」 (児童生徒版)

場面① 季節の行事への参加

- クリスマスや年末年始などの季節のイベントでは、気分が高揚し、感染予防への注意力が低下することがあります。

対策例

- ・ 主催者のいないイベントへの参加は控えます。
- ・ 主催者がいるイベントでも参加については、家庭でよく相談します。
※主催者がいるイベント：必要な感染対策がとられている。
- ・ 友人同士でイベントを楽しむときも、マスクの着用など基本的な感染対策を行います。

場面② 友人との飲食等

- 学校での昼食を始め、食事中はマスクを外すため、感染のリスクが高まります。
- 長時間や大人数、例えば5人以上の飲食では感染リスクが高まります。
- カラオケなどでの感染事例が報告されています。

対策例

- ・ 向かい合っでの飲食は避けます。
- ・ 食事中は会話を控えます。
- ・ 食事が終わったら、速やかにマスクを着用します。
- ・ 飲食は、少人数、短時間で済ませます。
- ・ 複数の人と交流するカラオケは控えます。カラオケでは大きな声を発することになるので、施設のガイドラインを遵守し、感染対策を徹底します。

場面③ マスクなしでの会話

- マスクの着用により、感染者と接する人のウイルス吸入量が減少することがわかっています。(布マスクを感染者が着用した場合に60-80%減少し、感染者と接する人が着用した場合に20-40%減少。)

出典：「(2020年10月時点)新型コロナウイルス感染症の“いま”についての10の知識」(厚生労働省)

場面④ 狭い空間での共同生活

- 寮での集団感染の報告があります。
- 密閉された狭い空間は、感染リスクを高めます。

対策例

- ・ 寒い環境でも換気を実施します。(室温が下がらない範囲で窓を少し開け、扇風機等を利用し、内部の空気を押し出します)
- ・ 室内の湿度を上げます。(加湿器がない場合は濡れタオルを干したり、バケツに水を入れて設置したりします。)

場面⑤ 部活動

- 部活動での感染事例が報告されています。

対策例

- ・ 発熱などのかぜ症状があるときは、部活動に参加しません。
- ・ 人と身体的距離が近い時は、大声を發しません。
- ・ 部室等での会話など活動時以外の場面でも注意を払います。